

茵雜載

軾
名稱

〔台記〕康治二年十二月八日庚寅略○中 菖蒲丸六歲 著袴略○中 南階東二間爲兒休所、余藤原衣冠註
出座北間兒著休所茵、

〔源平盛衰記 四十三〕安徳帝不吉端并義經上洛事

此帝ヲバ安徳天皇ト申テ、御位ヲ受サセ給テ、様々ノ不思議オハシマシケリ、受禪ノ日ハ、晝御座
御茵ノ縁、犬食損ジテ、夜ノ御殿ノ御帳ノ中ニ、鳩入籠リ略○下

〔忠利宿禰記〕承應三年十一月廿八日、花町宮西院有踐祚之事略○中
調進略○中 行事官、修復 劔璽案二脚 古物 褥略。

〔伊呂波字類抄雜物〕軾ヒザツキ 膝突日記同之

〔名目抄雜物〕膝突ヒザツキ 外有所司軾之

〔書言字考節用集七〕軾ヒザツキ 膝突ヒザツキ 之類

〔釋名七〕軾式也、所伏以式敬者也、

〔倭訓栞中編二十一〕ひざつき 膝突の義式に軾字を用う、小半疊なりといへり、江次第には軾布

ともみゆ、以薦爲膝突といふ事、侍中群要に見ゆ、

〔安齋隨筆前編四〕一膝突又たとへば半疊の如くなるもの也、行事を行はる、日、大臣上卿などの

假に膝を突て座する敷物也、古書にヒザツキに軾の字を用たり、玄かれども誤也、字彙に軾施職
切、音釋、車前横木可憑者とあり、此字をヒザツキに用るは誤りなれども、久しく用ひ來れり、和名

抄にも軾音式、和名車乃度之岐美とあり、ヒザツキの訓なし、軾ハ車ノ具也、敷物にあらず、

〔類聚名物考調度四〕ひざつき 膝突

是は地にひざまづく時に、かりそめに土をよけんとて敷物なり、小半疊のうすきにて、俗に云ふ
うすべりの小きなり、和名抄の車の調度のうちにも、軾をひざつきと訓みたれども、名は同くし